

小田桐たかし物語

子の成長と一体で親も成長

三月が近い、大風の冷たく吹く日、小田桐たかしさんは、愛娘和奏ちゃんの授業参観に行きました。四年生になつて、クラスが二十九人になつて、教室全体にゆとりが出て、子どもたち二人が主役です。「産んでくれてありがとう」「二重飛びが二杯できた」：十歳の子どもたちの話や成長に涙腺が緩みます。クラスの団結、全力で寄りそう先生や親御さん、日々の積み重ねの大事さを実感します。同時に、学校に増え続ける



非正規雇用の現実が子どもにも先生にも学校にも突きつけられています。政治の役割に、心をたぎらせます、さあ四期目にチャレンジです。

幼少から青年へ

小田桐たかしさんは一九七三年に神戸の市営住宅で生まれました。お父さんは日本共産党の専従職員、お母さんは町の医院で事務の仕事をして家計を助けていました。

冬でも半袖半ズボンで走り回る元気つ子。幼少時代からの大好物がお母さんの作る「いかなご」の佃煮。というより、経済的な理由もあり、

おかずはいつも「いかなご」しかなかったと笑つて話します。今まで一度も骨折したことがないと感謝も忘れません。

中学生では、風紀委員長に推薦されて、毎朝校門の前に立ち

ました。先生の服装点検の日は、ツッパリの子達にも教えてあげました。十二年欠かさず週三回の朝駅頭宣伝を続けられる体力と、外見で判断しない姿勢が培われたのでしょうか。

高校合格発表の日、お父さんが心筋梗塞で倒れ、半年間、生死の境をさまよいました。みんなの支えで回復しましたが、今度はお母さんが腎臓を傷め、透析することに。一生懸命、真面目に生きているのに、どうして？：そんな思いが広がります。

初めての挑戦

阪神淡路大震災も小田桐さんの人生を大きく変えます。やつと連絡がとれた小田桐さんに、ご両親は「こっちは大丈夫。国家試験に最善を尽くせ」と話されたそうです。二か月後、試験の終了した日に徳島から神戸に向かいました。瓦礫のなか、水もないなか活動するボランティア活動に感銘を受けました。またご両親の言葉の真意を悟ります。

診療再開を優先する神戸市内の病院では就職できず、東葛病院に就職しました。

レントゲン技師として、仕事面でも充実していました。が、費用を気にして脳腫瘍検査をためらう患者さんたちの姿に胸を痛めてきました。「二度挑戦したら」との働きかけに応じ、二十五歳で市議選立候補を決意しました。

二〇〇〇年、春風を受けながら白いタスキをかけ自転車をこぐ小田桐さん。緊張気味に街頭演説を終えると、近くで遊んでいた小学2年生の女の子二人がタンポポの花を手にとり寄ってきました。「ハイ、これあげる」「えっ、僕に。うれしいなあ」じんわりわり熱いものがこみ上げてきます。「しっかりせなあかん」とがんばり、トップ当選しました。

初石駅改善

議員になった小田桐さんは、文字通り東奔西走。議会で寝ている議員、質問しない議員と違い、全議会で質問しています。保育や介護保険、オオタカ保護、ごみ焼却場建設：国や県との交渉は、四〇回を越えるのです。産廃を認めない環境庁（当時）には、瓦礫の塊（五、六キロ）をバスから取り出しました。「こ

んなものが」と絶句する官僚。「よく持ってこれた」と同行した人も仰天してしまいました。

「小田桐君の若さとパワーはすごい。よく働く」は地域の人の定評です。市政に市民の願いを届ける姿に、「人をめったに褒めない議員が「よく勉強してる」と評価している」「私の分まで質問してよ」と市職員や保守系議員から声がかかります。

二〇〇四、〇八年の選挙では「できないことを公約してる」――まちの噂話を運転手さんが教えてくれ、負けないうでと励ましてくれました。それを力に、初石駅ではトイレが水洗化され、守谷県道の踏切が改善。エレベーターも設置されました。駅東口案も「検討できる貴重なご意見」と東武鉄道が回答しています。

痛みが分かる議員

ある時、小田桐さんに「息子がいなくなつた。家もなくする」という相談がはいりました。自宅には借金取りの通知が散乱するなか七十三歳のご婦人がひとり座っています。小田桐さんは市や公団に

掛け合い、生活の再スタートをきることができました。また「サギにあい、店もたたみ、死のうと思っていたけど、救ってくれた」と涙ながらに小田桐さんとの出会いを紹介する話もお聞きます。

「お世話になつて」と謙遜する相談者に、「市民の声、一つの相談、家族とのふれあい」が自分の血肉になつて、他の方の手助けに役立つんです。その人の痛みに共感できるんです」と声をかける小田桐さん。期待が広がります。

〇四年の選挙のとき、中学三年生の子どもたちと成人式で出会いました。みんな大きくなつています。駅前や仕事先で会うとなんだかすがすがしい気持ちになります。

『無縁社会』といわれる今、小田桐さんはもともと市議として役に立ちたい、働きたい、そして流山に住んで本当に良かったとみんなが思えるように、人と地域の輪を広げ、結びあえる「市」にしたいと頑張っています。

皆さん、小田桐たかしさんに市政で働いてもらうために、どうぞ応援してくださいね。